

受付番号	340-2
------	-------

倫理審査申請書(臨床研究)

平成 30年 1月 22日

岐阜県総合医療センター
院長 滝谷 博志 様申請者 所属 小児療育内科
職名 部長
氏名 長澤宏幸 ㊞

岐阜県総合医療センター倫理委員会手順書第 3 条に基づき、下記のとおり申請します。

記

診療等の名称	年間を通した施設内の温度・湿度調査			
代表者名	所属	小児療育内科	氏名	長澤宏幸
共同診療者名	所属	岐阜工業高等専門学校	氏名	青木 哲
診療等の概要 (実施計画書を添付のこと)	目的 1年間にわたり「すこやか」での温湿度環境を調査したデータを元に院内の他病棟(下記)における同様の調査を行い、患者・患児にとってよりよい環境は何なのかを検証し、環境改善の資料とする。 方法 病棟内の温湿度調査 別紙参照			
診療等の対象、実施場所及び実施希望年月日				
1 調査対象患者 直接患者について検査、調査するものではない				
2 症例件数 0例				
3 実施手順 調査実施場所は、4E病棟、10E病棟、すこやか3階病棟(継続)。具体的位置は別紙参照。				
4 調査期間 平成29年12月～平成32年3月				
5 患者の同意方法 該当しない				
6 調査項目 別紙参照				

- (注) 1 受付番号欄は記載しないこと。
2 紙面が足りない場合は別紙に記載する。

病棟の温湿度環境に関する調査

1. 研究背景・目的

H28 年度に、重症心身障がい児施設すこやかにおいて 1 年間にわたる温湿度測定を行った。その結果、温度は年間を通し 25℃前後と変動が小さかったものの、湿度は冬季において 20%~40%など、著しい低下が認められた (図 1)。病院内の温湿度環境についてのガイドラインとしては、日本医療福祉設備協会がまとめた「病院設備設計ガイドライン (HEAS-02-2013)」が挙げられ、その中で一般病室の冬季については、「23℃、50%」と定めており、その値と照らし合わせると湿度環境に関しては改善が望ましいと考えられる。一方、他病棟においても、同様な傾向がみられる可能性があり、温湿度環境の実態を把握することは重要である。本研究では、他病棟においても同様に長期温湿度測定を行うことで、患者およびスタッフにとって適切な温湿度環境であるかを検証するための資料を得ることを目的とする。

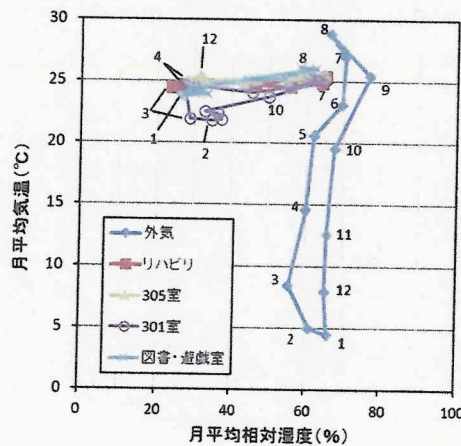


図 1 すこやか主要室における月平均気温と相対湿度のクリモグラフ (数値は月)

2. 調査期間

平成 29 年 12 月 ~ 平成 32 年 3 月

3. 測定方法

測定方法：温度湿度データロガー (TANDD 社 TR-72U) を設置する (図 2)。

大きさ：約 5cm×8cm。ロガーとの接触を防ぐため、穴あきのケースを被せる場合もある。



図 2 温度湿度データロガー

測定手順：

- ①温度湿度データロガーを測定場所に設置し、10分ごとに自動測定する。
- ②約2ヶ月毎にデータを回収する。必要に応じて、空調の使用状況等の聞き取りを行う。
- ③計測で得られた温度・湿度データを元に、絶対湿度を算出する。
- ④外気温のデータは、岐阜地方気象台観測値を用いる。
- ④Excelで各日の平均値、最高値、最低値、標準偏差、内外差等を算出する。
- ⑤日変動、平均日変化、クリモグラフなどを用いて、時刻・季節別の変動を視覚化する。

計測場所：当面はすこやか3階病棟、3階東病棟、3階西病棟、9階西病棟を対象とする。

状況を見て、必要に応じ他病棟の追加調査も考慮する。

今回は4階東、10階西病棟の追加をする。

4. 研究遂行者

研究担当者：建築学科准教授 青木 哲

TEL:058-320-1422, FAX:058-320-1429, E-mail:taoki@gifu-nct.ac.jp